

小石原と小鹿田の文化的景観の表象：来訪者と窯元・家族との比較

九州産業大学 学生会員 ○工藤悠太 九州産業大学 正会員 山下三平
金沢大学 非会員 丸谷耕太 龍谷大学 非会員 林珠乃 久留米工業大学 非会員 大森洋子

1. はじめに

大分県日田市の小鹿田と福岡県朝倉郡東峰村の小石原は、ともに民陶の焼物の産地として知られる集落である。小鹿田焼は現在も、伝統的な家族労働者のみによる生産体制を維持しており、2008年3月28日に、九州で初めて重要文化的景観の選定を受けた¹⁾。一方、小石原焼は昔ながらの製法を守りながらも近代化を受容し、生産を拡大させるために機械化を積極的に実施した。窯元・家族らは、地域の活性化を狙い、小石原皿山地区の景観を、行政に頼るだけでなく、自主的に整備してきた²⁾。このように両地域は窯業地の文化的景観として、地元の人々だけでなく、来訪者にとっても魅力ある地域である。しかし地域の人々と来訪者が注目する里の景観の要素は、異なるであろう。両里の保全を考えるならば、この違いとその理由を知る必要がある。

そこで本研究は、小石原と小鹿田の2つの焼物の里を訪問撮影法により調べる。また、来訪者と窯元・家族の景観の捉え方の違いを考察することで、小鹿田・小石原における文化的景観の保全のための知見を得ることを、研究の目的とする。

2. 方法

(1) 対象地域

小石原焼の産地であり、福岡県朝倉郡東峰村に位置する小石原地区は、2015年現在、44軒が陶器協同組合に加盟している⁴⁾。そのうち皿山地区には15軒が陶業を営んでいる。東峰村に隣接する大分県日田市源栄町皿山に位置する小鹿田皿山地区は、窯元が10軒と元窯元の4軒が生活・生業を営んでいる⁵⁾。これら2地域を対象とする。

(2) 調査と分析の概要

来訪者の調査は、2016年7月16日に、福岡市とその近郊の大学生40名（男性23名、女性17名）に協力してもらい、バス2台に分乗して午前と午後で交互に小石原・小鹿田を訪れて行った。被験者には、デジ

タルカメラと記録用紙を渡して撮影と記録を依頼する、訪問撮影法³⁾を適用した。調査期間と方法・手順を表1に示す。

表1 調査期間と方法・手順

対象	小石原地区	小鹿田地区
調査年月日	2016年7月16日	2016年7月16日
方法・手順	①皿山らしい風景・景観を50枚を目安に撮影	
	②撮ったものを記録	
	③撮ったもののコメントを記録	

本調査に先立って、小鹿田皿山地区では、2016年5月24日から6月17日の間に、小石原皿山地区では、2013年3月4日から3月11日の間に、窯元とその家族を対象とした同様の調査が行われた⁴⁾。これらと本研究の来訪者との比較を行うことで、来訪者の特徴が明らかとなるだろう。

3. 結果

(1) 来訪者間の主対象の比較

小石原で1,267件、小鹿田では1,206件の有効な写真が得られた。そのうち主対象の割合が10%以上の結果を示したのが、図1（小石原）ならびに図2（小鹿田）である。

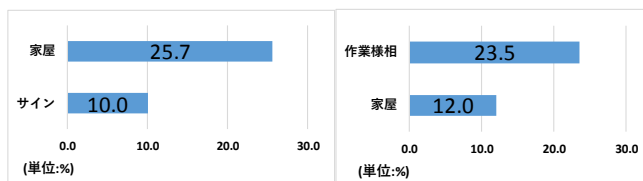


図1 小石原における来訪者の主対象の頻度（10%以上）

図2 小鹿田における来訪者の主対象の頻度（10%以上）

小石原では、「家屋」が25.7%と最も多く、次に「サイン」の10.0%である。「家屋」は生活の仕方、「サイン」は人々の移動・誘導を表すものである。一方、小鹿田では「作業様相」が23.5%「家屋」が12.0%である。

小鹿田では、作陶の様子という、陶芸の里らしい事物に注目が集まる傾向が見られる。

(2) 来訪者間の評価の比較

評価の内容を、肯定、否定、評価なしの3項目に分

類し、集計する(図3)。小石原と小鹿田との間で、目立った差は見られない。いずれの里でも、否定が4%弱、肯定が40%前後であり、評価なしが50%以上になる。

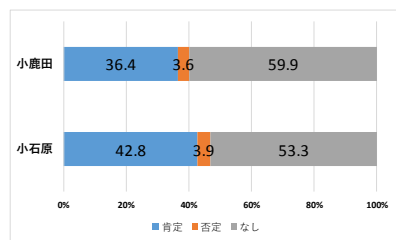


図3 小石原と小鹿田の来訪者における評価の割合

(3) 窯元・家族と来訪者との主対象の比較

小石原の窯元・家族からは858件、小鹿田では223件の写真(とコメント)が得られている⁴⁾⁵⁾。両地域の主対象の割合が10%以上の結果を示したのが、図4(小石原)ならびに図5(小鹿田)である。

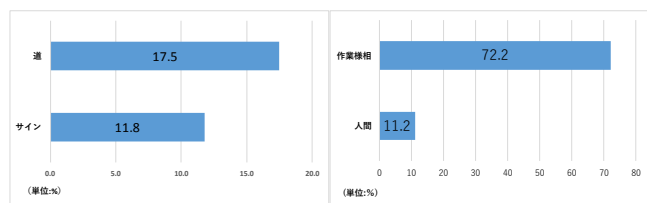


図4 小石原の窯元・家族における主対象の頻度

図5 小鹿田の窯元・家族における主対象の頻度

小石原の窯元では、「道」と「サイン」が10%以上である。「サイン」は、小石原の来訪者と同様だが、窯元では、「道」という、サインと同様の移動・誘導手段が最も多い。窯元と家族が、より人々の誘導に関心が高いことがわかる。

一方、小鹿田の窯元では、「作業様相」と「人間」が10%以上である。とくに「作業様相」(72.2%)は全体の7割以上と極めて多い。「人間」は11.2%であり生業のための作業に注目が集まる。来訪者も「作業様相」(23.5%)が最も多く傾向は類似するが、生業への注目度は窯元の方が明らかに強い。

(4) 窯元・家族と来訪者との評価の比較

小石原の窯元は、来訪者に比べて、否定意見が目立つ⁴⁾。これは、動物(シカ・イノシシ等)やサインに関するものである⁴⁾(図6)。小鹿田では、窯元と来訪者の「評価なし」に20%弱の差が見られる。窯元とその家族は、生活・生業の身近さゆえ、それらの評価が容易ではないためと考えられる(図7)。

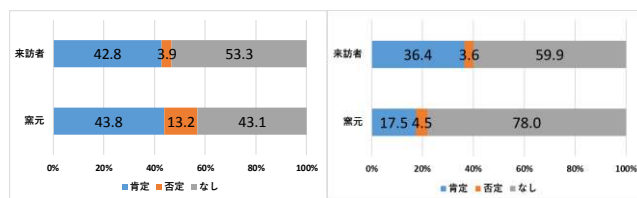


図6 小石原の窯元・家族と来訪者における評価の割合

図7 小鹿田の窯元・家族と来訪者における評価の割合

4. まとめ

本研究では、小石原と小鹿田の2つの焼き物の里を訪問撮影法により調べ、来訪者と窯元・家族の捉え方の違いを検討した。その成果は、以下のとおりである。

- 1) 小石原の来訪者は、家屋とサインといった外部景観要素に注目が集まる。
- 2) 小石原の窯元・家族は、道とサインといった、人々を誘導する要素に注目する傾向があり、来訪者よりも、機能的な捉え方をする。
- 3) 小鹿田の来訪者は、この里の窯元・家族と同様に、作陶の様子という陶芸の里らしいものに注目する傾向がある。
- 4) しかし、窯元・家族の生業への注目度は、明らかに強い。

小石原では、来訪者と窯元・家族の双方ともサインに注目が集まる。サインの工夫は合意が得られやすく、効果的と考えられる。

小鹿田では、来訪者と窯元・家族の双方ともこの里の生活・生業に注目が集まる。とくに後者はその程度が著しい。しかし、景観要素・観光資源としての活用は、安易に行えば生活・生業への影響が大きいので、問題となりやすいだろう。文化的景観としての保全・管理にかかわる行政は、この点を十分認識すべきである。

謝辞: 小石原小鹿田の訪問調査にご協力を頂いた皆様、並びに両地域の窯元の皆様、揃って感謝申し上げます。本研究は、日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究C)「小石原焼きと小鹿田焼きの里における文化的景観表象の分析と評価(代表者:山下三平)」として行われたものである。

参考文献:

- 1) 濱田琢司: 維持される産地の伝統〜大分県日田市小鹿田陶業と民芸運動〜, 人文地理第54巻第5号, 2002.
- 2) 小石原の里における作陶に関わる文化的景観の変容に関する研究, 公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集 Vol. 49 No. 1 2014.
- 3) 野田正彰: 漂白される子供たち, 情報センター出版局, 1998.
- 4) 陶芸の里・小石原皿山の景観の表象の把握と評価 - 実在的景観論の試み -, 土木学会論文集D1, Vol. 73, No. 1, 1-20, 2017.
- 5) その家族の目を通した陶芸の里・小鹿田皿山の景観とその評価, 土木学会論文集D1, Vol. 73, No. 1, 51-62, 2018.